

会議録

会議名	第3回習志野市公共施設躯体活用型建替検討専門委員会
開催日時	平成27年12月25日(金) 13:30~15:40
場所	サンロード津田沼 6階大会議室
出席者	[委員] 習志野市公共施設躯体活用型建替検討専門委員会 田島委員長、湯浅副委員長、遠藤委員、古波津委員 [事務局(財政部資産管理室資産管理課)] 吉川室長、江口課長、早川主幹、岡田主幹、青野副主査 [事務局支援事業者] 株式会社 日本経済研究所
議事等	1. 開会 2. 議事 (1) 報告事項 ・今後のスケジュールについて ・「大久保地区公共施設再生事業に対する提言書(案)」について (2) 審議事項 3. その他 4. 閉会

傍聴者：1名

【会議概要】

●開会

●議事

(1) 今後のスケジュールについて

- ・次回専門委員会で事業費の試算について提示することを事務局より説明。
- ・27年度10月、2月、28年度半ばの民間対話の内容について岡田主幹より説明。

(2) 大久保地区公共施設再生事業に対する提言書(案)についての議論

- ・委員会の議論については、個々の建物についてではなく、どういう点を見て検討した方がいいのかアドバイスをいただくという趣旨で、提言書の委員の意見の書き方については検討し、また委員に確認を取らせていただく。

委員意見要旨

田島委員長	○図書館、勤労会館はおおむね耐震性はある、市民会館・公民館は構造的にバランスが悪く補強が必要である。 ○公共建築の劣化、老朽化のノウハウは点検、安全性確保、劣化防止となるが、まだ確立されていない。地元の大学と連携して取り組んで欲しい。 ○施設を取り壊す場合にも、市民の記憶の継承ということを考えてほしい。
-------	--

	○音楽のまち習志野であるので、ホールは音楽を中心にすべきである。
湯浅副委員長	○耐震性及び劣化については、現在の技術を活用し、コストをかければどのようにも改修が可能である。ただし、施設の使い方が制約されるという点、コストの点から、本事業でそのまま活用することの適否については検討が必要。 ○建物劣化については、長期的にノウハウのある人がそれを監視していくルール（ルールについても見直しが必要）や仕組みを作っていくことが重要である。 ○ホールは音楽を中心とし、講演会のようなものは大学と連携し大学のホールを活用するなど、役割分担した方がいい。
遠藤委員	○躯体活用型建替については、そのリスクは後からわかることが多い一方で、行政の仕組みとして後から費用を手当てするのは難しいという点があるため、不測のリスクはできるだけ避けた方がいいと考える。 ○ホールについては、何でもできるというよりは、ターゲットを分けて（他ホール等との）棲み分けを考えた方がいい。
古波津委員	○建物の保全性をどう担保するか。目標となる寿命を設定し保全計画をたてていくことが必要と考える。かつ、それをモニタリングしていく提案を民間からもらえるように考えてほしい。 ○モニタリングしていく判断基準についても、見直しができる仕組みを導入した方がいい。定期的に点検していく仕組みが重要と考える。 ○長期に品質が保証されるような仕組みを考える必要がある。

<委員会としての提言>

- 図書館、勤労会館は、正形であり I S 値もあるのでリノベーションが適している。
- 図書館は I S 値が 1.0 以下なので荷重的には本を減らす、用途を変更するなど軽くすることが適している。使い方については工夫すべきである。
- ホールは音楽を中心とし、大学のホール等との連携なども検討する。

●次回の委員会開催予定について

1月20日10時より、2つの専門委員会の合同開催を予定（仮庁舎4階会議室）。

●閉会